

ひろば



※学校・家庭・地域は三位一体 「伝え合い、つながり合おう」～ともに学び、ともに育つ～※

学校教育自己診断アンケート(2回め) 結果・分析

学校だより「ひろば」10月号(アンケート1回め)で、主に「課題」として捉えた部分についての「その後」を中心にお知らせします。

◆「宿題 はいらない」…児童質問 64

- ・低学年(1～3年) 宿題いらない28% 宿題いる72% (※1月号の結果は暫定値)
- ・高学年(4～6年) 宿題いらない37% 宿題いる63%

学校だより「ひろば」(1月号)でも話題にしました。皆様、この結果を、どう考えますか？

◆自ら学ぶ姿勢 …児童質問 30・53・54・55

「学習のふりかえり」についての肯定的回答は、低学年は約83%(前回は3%減)、高学年は約71%(前回は2%増)。「計画的な学習」「予習・復習」については、全児童で前回より肯定的回答が増。特に、低学年では「予習している」が約73%(前回は5%増)、「復習している」が約76%(前回は10%増)。高学年では、「計画的に学習している」が約58%(前回は4%増)、「復習している」が約51%(前回は5%増)。



また、次の項目について、保護者の皆様の意識も高まってきている。

- ・「学習のふりかえり」(保護者質問20)の肯定的回答 約71%(前回は9%増)
- ・「タブレットを活用し、自主的に学習」(保護者質問22)の肯定的回答 約59%

(前回は9%増)

- ・「予習している」(保護者質問24)の肯定的回答 約35%(前回は12%増)
- ・「復習している」(保護者質問25)の肯定的回答 約47%(前回は1%減)

その他、学習に関する質問について

- ・「落ち着いた環境で学習」(保護者質問14)の肯定的回答 約88%(前回は4%増)
- ・「質問しやすい雰囲気」(保護者質問17)の肯定的回答 約88%(前回は7%増)

これらの回答をふまえ、学校として、児童一人ひとりが安心して学べる環境整備のさらなる推進とともに児童自らが**自分に合った「学び方」**を身に付けられるよう、授業づくりの工夫や改善をしていく。また、学習することの「楽しさ」や「喜び」を感じ、様々な課題にチャレンジする児童の学習意欲を高めていきたい。

そのためにも、児童が、「受け身」「指示待ち」ではなく、「なんだろう?」「やってみよう」等、**自ら進んで学びに向かう課題意識**を持たせたい。



◆落ち着いた雰囲気の中での授業 …児童質問 21

前回と比較し、ほぼ変化なし。全児童の約 80%は肯定的回答だが、約 20%は否定的である。今後、約 20%の児童が、どういう点を「落ち着いていない」と感じているのかを明確にして、**児童が安心できる学習環境**を整備するとともに、児童が、「その場の状況に順応すること」「自分自身で、その状況を回避する手段をもつこと」等ができるよう、児童や保護者と一緒に考えていきたいと思います。

◆学習時の質問等 …児童質問 26・27

「授業で分からない時、自ら質問する」の肯定的回答は、低学年で約 73%、高学年で約 55%（ともに前回比 2%減）。「わからない」とまわりに伝えることについての肯定的回答は、低学年で約 80%（前回比 2%減）、高学年で約 84%（**前回比 4%増**）。今年度、すべての児童が安心して学ぶ授業づくりに取り組んでいる。今後、ますます「**まちがえたり、分からなくても、友だちや仲間と安心できる学習環境と仲間づくり**」を進めていく必要がある。

ただし、次の項目について、児童の意識が高まってきていることから、教師の一斉授業を脱却し、**児童が主体的に学ぶ「学びの共同体」**に移行する**絶好のチャンス**と捉えている。

*「自分の意見や考えを進んで発表している。」（児童質問 24） 約 73%（**前回比 9%増**）

*「ペアやグループで話し合う学習が楽しい。」（児童質問 28） 約 91%（**前回比 6%増**）

◆児童の大人への相談（困ったこと、いやなこと）…児童質問 8・9

低学年（1～3年）は、前回とほぼ同様で約 15%（前回比 1%減）、高学年（4～6年）は、約 26%の児童が、「**十分に相談できていない**」と回答（**前回比 6%増**）。

この質問に関連し、「お子さんが仲間や友だち、家族や先生に助けを求めたり、相談している」（保護者質問 6・7）の肯定的回答が、約 86%（**前回比 5%増**）。高学年は思春期に入るなど、相談しづらくなると思われる。直接伝えるだけでなく、間接的に児童の悩みや思いを受け止める「しくみ」と時間的余裕が必要であるとともに、日頃の「つながり」も強化したい。

◆「自分には、よいところがあると思う」…児童質問 63

低学年の肯定的回答が、約 86%（前回比 7%減）、高学年の肯定的回答が、約 75%（前回比 6%減）、保護者の肯定的回答が、約 82%（前回比 10%減）となり、すべて減少。

毎日の生活を通して、「できた」「がんばった」等とよいことばかりでなく、失敗したり、くやしい思いをしたりとネガティブな感情を持つこともある。

児童は、自分自身の課題やネガティブな感情を、どう乗り越えていくかが重要であるとともに、果敢にチャレンジする児童の「**がんばり**」について、**おとなが意識して認めること**で、児童は自分の「よさ」をメタ認知することができる。と考える。

だからこそ、自分の「よさ」について、児童が客観的に自分を振り返られるようにするとともに、おとなが、児童の「よさ」を認め、今以上に児童に伝わる評価（声かけも含む）をする必要がある。



◆「学校・家庭・地域」三者のつながり … 児童質問 59・60・61

低学年は、どれも意識が高まっている。特に、「地域のためになることをしている」の肯定的回答は、約76%（**前回比11%増**）。「家の人や地域の人といっしょに、学習したり、行事に取り組んだりしたい」の肯定的回答は、約82%（**前回比4%増**）。高学年の肯定的回答は、どの項目も前回より減少傾向。ただし、児童質問62「自分は、まわりの人（学校・家庭・地域）から大切にされていると思う」の肯定的回答は、低学年で約92%（**前回比2%増**）、高学年で約90%（**前回比6%増**）。「お子さんは地域の行事に参加している」（保護者質問36）の肯定的回答が約50%（**前回比1%増**）。登下校の見守りをはじめ、土曜日の「いきいき広場」、季節ごとの校区の行事等、地域の皆様とのつながりを実感できる時間や空間があるからこそその結果だと考える。今後は、子どもと保護者がいっしょに地域の活動に参加するなど、家庭と地域の「つながり」をさらに深めるとともに、防災学習（4年）やお手玉づくり（5年）等、子どもたちが地域の皆様との学習の場に、保護者の皆様も加わる取組をしていきたい。



他の項目についても、ご覧いただきながら、お子さんと学校生活や家庭生活、地域とのかかわり等、様々な観点で話をしていただけたらと考えます。

また、学校全般に関するご意見等は、直接、伝えていただけるとありがたいです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

